

令和6年度事業報告

I 概要

1. 総括

【企画会議】

企画会議は、各専門委員会委員長で構成し、三役が参加し諮問している。委員会間の情報を共有するとともに意思疎通を図り、理事会及び専門委員会の運営が円滑に行われるように取り組んできた。

センターの現状を見ると、令和6年度末の会員数は269名となり、令和5年度末の会員数256名より13名の増となり、年度目標の262名を達成することができた。役員による普及啓発活動や、年度末の入会会員の会費負担を軽減するために、正会員会費規約を改正したことが功を奏したと思われる。また粗入会率は2.38%となり、目標値である2.2%を達成することができた。

契約金額については、シルバー人材センター事業は、前年度は据え置いていた公共事業の事務費の引き上げや最低賃金の引き上げ、派遣事業からシルバー人材センター事業に切り換えた事業もあり実績は増加した。労働者派遣事業については、前述のことなどから実績は減少したが、総合実績は目標の1億6千万円を達成することができた。未就業会員解消、就業機会拡大の各項目については、あと一步のところまで達成できなかった。

毎月第4水曜日の就労相談日は、移転したふれあいサロンで実施していることが徐々に周知されてきており、相談件数もわずかながら増加した。

毎年企画会議が主体となって実施している「仕事始め式」と「安全祈願祭」は、昨年度より参加者も増え、餅つきや赤飯の配布など盛り上がりを見せたが、コロナ禍前の参加人数にはまだまだ及ばないため、今後も参加を促す工夫が必要と思われる。

ワークプラザは、主に手作り加工部つくしんぼなどの独自事業の活動拠点として利用されている。会員の懇親の場として、また伊佐さくら会など活動拠点としても、練習の場としても重宝されている。

【事業推進委員会】

定時総会は、事業推進委員会と役員が中心となって、令和6年5月21日に実施した。ここ数年では最も多い145名の出席であったが、コロナ禍前には及ばなかったこと、また理事等の選任議案を考慮しても長時間に及んだことについては今後の課題とした。

行政機関との懇話会は、令和6年10月8日、伊佐市長、副市長ほか各課長19名、センター役職員30名出席のもと開催した。意見交換により契約内容の認識が行政とシルバー間で乖離していることが分かり、内容次第では契約額を見直す必要があることを確認できたことは成果として挙げられる。

市議会議員との懇話会は、令和7年1月27日に市議会議員15名、議会事務局2名、センター役職員26名出席のもと開催した。11月に行われた市議会議員選挙を受けて通常と異なる寒い時期の開催となったものの、新人議員も多かったことから懇話会・懇親会とも建設的な意見交換が行われた。また久しぶりの「手作り加工部つくしんぼ」による弁当も大好評であった。

当委員会の担当である苦情処理については、会員の不注意・モラル欠如によるもの

や発注者との連絡・確認不足がほとんどであり、今後の研修が必要と思われる。

利用者アンケートについては、令和6年4月から令和7年3月までの間に、68件の回答があり、仕事の満足度については、その多くが『満足』という回答をいただいている。特に作業前後の写真が好感を得ており、発注者とも意思疎通の観点からも継続すべきことと思われる。

【組織管理委員会】

会員は地域班及び職域班に属し、センターの基本理念に基づき自主的、自立的な活動を実践している。

会員拡大については、例年と同じく「一会員一入会運動」を展開した。今年度の入会説明会受講者は52名、入会者数は33名となり、年会費の改定や入会説明会の改善などで一定の成果を上げることができた。年度末の会員数は269名となり、令和5年度末から13名増加し、目標数を達成した。なお、退会会員については、高齢化や病気などによりやむなく退会せざるを得ない会員が増えていることを認識しておく必要がある。

入会後には新入会員を対象とした「新入会員研修」を実施し、センターの基本理念、心構えの徹底を図るとともに、会員が守るべき就業時のルール、手順等について説明した。また、研修終了後には個別相談を実施した。

一般作業群・技能群・独自事業群を対象に「職域班会員研修」を行い、外部講師を招いて「接遇及びコミュニケーションの基本について」講習を行った。

役職員独自研修は8月26日(月)に実施し、「シルバー人材センターの基本理念について」及び「フリーランス法施行への対応及び契約方法の見直し」について研修を行った。

地区別ボランティア活動については、6月1日(土)に大口地区は大口元気こころ館周辺、菱刈地区はまごし館周辺の2ヶ所に分かれて行い、大口地区41名、菱刈地区29名の参加があった。

また、全体ボランティア活動は、10月5日(土)に曾木小学校で行い、会員58名の参加があった。運動場周辺の草刈りや剪定、除草などを行い、秋の運動会を控えた学校側からも大変喜ばれた。また当日の状況は南日本新聞にも掲載され、シルバー人材センターのPRに一役買った。

【就業管理委員会】

普及啓発活動については、街頭キャンペーン、広報活動車による広報活動等を継続的に行った。広報車による街頭宣伝活動は毎月実施し、公共施設やコミュニティなどに掲示している入会説明会・就労相談日関連ポスターの貼り替えを行った。特に10月の普及啓発促進月間においては、通常巡回していないコミュニティも訪問し、ポスターの掲示をお願いした。また月間中は全会員によるチラシ配付活動を実施した。

地域住民への普及啓発及び理解を深めることを目的とした『伊佐シルバー祭り』については、開催時期を見直し、年末の繁忙期を避けて3月に実施したところ、昨年度より会員の参加人数が大幅に増加した。また、式典、展示販売や女性会員による手作りの昼食サービスを実施し、多くの方々が参加され盛況であった。

施設管理群の就業ローテーションも引き続き取り組んだ。

植木剪定スクーリング初級コースでは、一般市民に対して剪定に関する知識や技術を習得してもらうことでシルバー人材センターの魅力をアピールし、同時に入会勧奨を行った。また中級コースでは、より専門的な講義を実施し、会員の技術向上、剪定班の戦力アップを図った。

事業実績については、昨年度より会員数及び契約金額ともに増加した。また、『高齢者活用・現役世代雇用サポート事業』で配置されている事業コーディネーターが定期的に就業開拓等の活動を行い、センター事業の理解及び浸透を図った。

【福祉・家事サービス委員会】

福祉・家事サービス群としては、委員会を中心に一定の活動が行えた。

福祉・家事援助サービスの主な受注は、高齢者家庭の家事援助である。市の包括支援センターや民生委員からの相談を機に就業に至るケースもある。また長寿介護課の生活支援サービス事業による受注もあり、ここから次の受注に繋ぐことで就業機会の拡大につながるよう、会員の協力と資質の向上が求められる。しかし、残念ながら確認不足によるトラブルもあった。発注者と「よい人間関係をつくること」がサービスの基盤となるため、綿密なコミュニケーションと過不足のない対応が不可欠である。

「頭の体操教室」は、これまで受講者から大きな支持を受けており、令和6年度も引き続き、読み・書き・計算や、月1回の健康体操とレクリエーションを行った。例年通りのレクリエーションに加え、グラウンドゴルフやボッチャを実施したりと「勉強ばかりでなく皆で楽しい事を」という受講生の要望を取り入れた。また教室は、毎回道具等のアルコール消毒・マスクの着用などの感染症予防対策を行ったうえで実施した。受講者に毎回好評だった園児・児童とのふれあい交流は健康・安全面を考慮し、令和6年度も中止とした。

〔頭の体操教室受講者実施状況〕

実施校区	伊佐市委託事業			
	受講者	修了者	開設日	延受講者数
おおくち	36人	34人	39日	1,249人
ひしかり	20人	16人	38日	597人
やまの	9人	8人	40日	265人
ほんじょう	15人	14人	38日	450人
はつき	17人	16人	40日	584人
合 計	97人	88人	195日	3,145人

介護予防事業については、大口地区2回、菱刈地区2回の計4回開催し、良い評価を頂くことができた。

[介護予防事業実施状況]

実施日	実施場所	実施内容	参加状況	
			一般	会員
5月17日(金)	こころ館	認知症サポーター養成講座	13人	16人
8月23日(金)	まごし館	歌・体操・カルタ遊び	6人	7人
11月15日(金)	こころ館	健康体操	12人	7人
1月24日(金)	まごし館	歌・体操・輪投げ	11人	8人

子育て支援事業は、『放課後児童健全育成事業(児童クラブ)』を軸に、市や学校の協力のもと、十分な感染防止対策を講じながら充実した活動を実施することができた。しかし、会員と保護者との認識の違いなど、時代とともに変化している側面もある。安全な見守りや声掛けの方法等を学ぶ機会を持つことが今後の課題である。

[放課後児童健全育成事業実施状況]

	開設日数	登録児童数	平均利用児童数	延利用児童数
山野児童クラブ	250日	13人	7.4人	1,845人
羽月児童クラブ	290日	34人	18.3人	5,321人

講習会については、料理講習会を2回と子育て支援講習会を2回、開催することができた。就業機会の拡大や会員のスキルアップにつながるよい結果が得られたことから、今後も継続して実施していく。

[講習会実施状況]

講習会	実施日	実施内容	参加状況	
			一般	会員
料理講習会	7月19日	体にやさしい料理	4名	6名
	11月29日	クリスマスの料理	5名	4名
子育て支援講習会	7月4日	問題解決に向けたコミュニケーションのあり方	2名	10名
	10月18日	保健師による感染症予防の講話	1名	9名

普及啓発活動については、伊佐ふるさとまつりと春フェスが開催され、委員によるチラシの配布を行った。事業所訪問についても計画通り実施した。福祉家事群によるボランティア活動も実施し、普及啓発活動及び地域貢献に努めた。

【独自事業管理委員会】

独自事業については、センターの特性を活かしながら、会員の自主的就業活動の場として安定した事業を展開してきた。

門松製作事業は、販売数量、売上金額は前年度より少し減少したものの技術の研鑽や材料の確保、作業段取りの改善に取り組んだ結果、就業時間の大幅な短縮により配分金単価の増額につながった。

しめ縄事業は、経験と技術の研鑽により昨年度と同様に良好な販売数量、売上金額を維持することができた。

シルバーふれあいショップは、徐々に来客数が増加しており、売上は少しずつ伸びてきている。

ふれあいサロンは、特定された人に限らず、新たな地域のお客様や会員同士の憩いの場として居心地の良い場所を提供することができた。

手作り加工部つくしんぼは、お客様のニーズに合った商品の開発と安定的生産に取り組んだ。特に季節限定販売のあくまきや正月用餅の売上は好調だった。

刃物研ぎ事業は、概ね順調な活動により例年並の取扱数量と売上額であった。

製炭事業は、製炭工程、炭窯の見学及び大島作業所での体験講習会を2回に分けて実施したところ、熱心に意見を交わすなど興味津々の参加者もおられ、今後の製炭事業に期待をもてる製炭講習会が実施できた。

上記以外の事業は、大きな活動は出来ていない状況である。

総括すると、独自事業での就業を通じて地域社会に貢献することを目標に、製造技術の向上や販売促進等に取り組んだ結果、全体として例年を上回る取扱数量と売上額であった。

【安全委員会】

事業計画に基づき、安全委員会及び安全委員会対策員会議を中心に安全就業の推進に取り組んできた。

機具取扱講習会、車両安全運転講習会は実技を中心とした内容を実施し会員より好評を得た。救急講習会は開催日程の見直しを行い、受講者数が増加した。

交通安全教室は、事前に講師への質問事項の取りまとめを行うなどして会員の声を反映できるように努めた。

交通安全キャンペーンは「安全運転でいこ～もち大作戦」と題して、配布物をいこもちにするなど内容をリニューアルし、より一層の交通安全の推進とセンターの普及促進を行った。

また、今年度は飛び石事故が多発した年となったため、会員からの防護ネットの提供や持ち運びしやすい防護ネットを新たに購入するなど飛び石事故防止対策に努めた。

過去5年度間の事故発生件数

事故 年度	発生件数		
	傷害	物損	合計
2年度	8件	5件	13件
3年度	3件	4件	7件
4年度	7件	8件	15件
5年度	3件	9件	12件
6年度	6件	7件	13件

2. 理事会 令和6年度の理事会は、8回開催した。

理事会は、センター業務の運営上必要な事項について、総会に次ぐ議決機関であると同時に、最高の執行機関であるので、センターの発展のため、理事会を中心とした専門委員会活動の充実とセンター運営の統括を図るため、三役会議で各情報を収集し、各委員会へ反映させた。更に、センター事業の変革に対応するため、三役会議・企画会議での十分な協議により、理事会運営の強化も図った。

3. 組織活動

(1) 地域班

地域班において、センターだより「シルバー伊佐」、就業や安全、講習会の案内などの充実した情報が毎月定期的に会員へ届けられるシステムは、世話人を中心とした会員の協力体制が充実してきた現れである。

(2) 職域班

センターが請けた就業依頼を、班長が会員に自主的に伝達、調整する班運営も確立しており、世話人・班長の日頃の努力によるものが多い。班長の高年齢化による安全面の問題解決のために職域班長の定年制を導入している。

また、今年度実施した講習会は、次のとおりである。

① 職群別会員研修

② 新入会員研修

4. 安全就業対策

会員の安全就業は、みんなの願いであり、大切な事項であるため、安全委員会及び対策員会議において、安全就業実施計画書を基に会員の無事故対策が講じられた。

(1) 安全就業マニュアル・安全就業実施計画書に基づく安全就業の徹底

(2) 安全就業の日朝礼式及び安全就業現場パトロールの実施

(3) 交通安全キャンペーンによる交通安全及びセンターの普及啓発

(4) 交通安全に関する講習会の実施

[車両安全運転講習会、交通安全教室]

(5) 安全就業に関する講習会の実施

[機具取扱講習会、救急講習会]

5. 普及啓発関係

就業管理委員会を中心に、役員・会員により次のような活動を行った。

(1) 集客場へのパンフレット等の配置

(2) 地域施設等への広報（入会説明会・講習会日程等）

(3) 広報車による普及啓発活動

6. 福祉・家事援助及び育児支援サービス事業

福祉・家事サービス群としては、市の委託事業を中心に様々な事業に取り組んだ。感染予防に配慮しながら一定の活動が行えた。

(1) シルバーハウジング（高齢者住宅等安心確保事業）の実施

(2) 頭の体操教室（認知症予防事業）の実施

(3) 児童クラブ（放課後児童健全育成事業）の実施

(4) ほほえみ会定例活動の充実

(5) 講習会の実施（料理講習会，子育て支援講座）

しかし、家事援助サービスについては就業会員が少ないことから、会員の獲得が緊急の課題である。今後も啓発活動に力を入れていく。

7. 独自事業の展開

独自事業は、会員自らの創意工夫により、趣意を同じくする会員が実施する事業で、就業開拓の大きな位置づけとなるため、独自事業管理委員会を中心に現事業の拡充並びに新規独自事業の研究開拓に取り組んだ。

後継者育成としては、定期的な講習会を開催し、独自事業会員の拡充を図った。

また、独自事業会員の資質向上を図るための研修等も実施した。

(1) 独自事業実施状況

- | | |
|----------------|---------------|
| ① 門松製作事業 | ② しめ縄製作事業 |
| ③ 花卉・園芸栽培事業 | ④ 製炭事業(木炭・竹炭) |
| ⑤ シルバーふれあいショップ | ⑥ 刃物研ぎ事業 |
| ⑦ 手作り加工部つくしんぼ | ⑧ ふれあいサロン |

(2) 講習会等実施状況

- | | |
|-----------|-------------|
| ① わら細工講習会 | ② 刃物研ぎ講習会 |
| ③ 製炭講習会 | ④ 氏神用しめ縄講習会 |